

外フラット式集水桧 施工資料一式

小型～中型集水桧（250×250 ～ 600×700 サイズ）

対象製品 AS桧 ・ PU桧（小型～中型サイズ）

収録資料

①

吊具選定一覧表

桧サイズから必要な吊具の種類・本数・耐荷重が分かる早見表。色分けと現物写真付き。

②

桧の立て起こし作業について

横倒しで納品された製品を、安全に立て起こすための手順（600×700サイズ以下）。

③

削孔可能範囲について

柱・梁を傷めずに穴をあけられる範囲の考え方。幅方向（eA・eB）と高さ方向（t）の除外範囲を解説。

④

桧とグレーチングの設置向きについて

桧の道路向き、グレーチングのスパン方向、110度開閉式とボルト固定式の違いを図解。

※ 本資料は施工の参考情報です。具体的な寸法・数値は製品カタログの寸法表をご確認ください。

※ 吊り金具はレンタル品です。施工完了後は弊社へご返却ください。

外フラットマス 吊具選定一覧表

柵サイズから必要な吊具・耐荷重がそのまま分かります

■ PU柵

柵サイズ (mm)	呼び高さ	吊具の種類	径	必要数 (本)	耐荷重 (1本/kg)	合計耐荷重 (参考/kg)
250×250	—	アイボルト	M16	2	450	900
250×500	—	アイボルト	M16	2	450	900
300×300	—	アイボルト	M16	2	450	900
300×600	—	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
400×400	—	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
500×500	—	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
400×600	—	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
500×600	—	高強度アイボルト	M20	2	932	1864

■ AS柵

柵サイズ (mm)	呼び高さ	吊具の種類	径	必要数 (本)	耐荷重 (1本/kg)	合計耐荷重 (参考/kg)
300×300	400～1400	アイボルト	M16	2	450	900
300×600	400～1400	アイボルト	M16	2	450	900
400×400	500～1500	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
450×450	500～1500	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
400×500	600～1500	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
400×600	600～1500	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
400×800	600～1600	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
500×500	600～1700	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
500×600	800～1700	高強度アイボルト	M20	2	932	1864

■ AS柵（大型）

柵サイズ (mm)	呼び高さ	吊具の種類	径	必要数 (本)	耐荷重 (1本/kg)	合計耐荷重 (参考/kg)
500×1000	600～1600	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
600×600	800～1800	高強度アイボルト	M20	2	932	1864
600×700	800～1800	マルチボルト	M16	2	2200	4400
700×700	1000～2000	マルチボルト	M20	4	3500	14000
800×800	1000～2200	マルチボルト	M20	4	3500	14000
800×1000	1000～2250	マルチボルト	M20	4	3500	14000
900×900	1000～2200	マルチボルト	M20	4	3500	14000
1000×1000	1000～2400	マルチボルト	M24	4	5000	20000

外フラットマス 吊具選定一覧表

樹サイズから必要な吊具・耐荷重がそのまま分かります

【吊具の種類（色分け・写真）】行の色と現物写真で見分けてください

	アイボルト M16
	高強度アイボルト M20
	マルチボルト M16 （M16/M20/M24は同形状）
	マルチボルト M20 （M16/M20/M24は同形状）
	マルチボルト M24 （M16/M20/M24は同形状）

【凡例・注意事項】

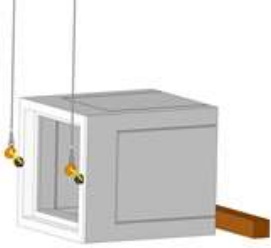
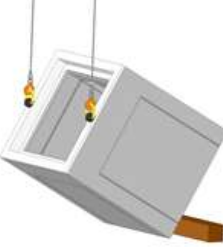
- ・「合計耐荷重(参考)」は 1本あたり耐荷重 × 必要数 で算出した目安値です。実際の吊り上げ可否は安全率・吊り角度・玉掛け方法で変わりますので、正しい使用方法でご利用ください。
- ・「高強度アイボルト」は S45C・N 材を指します
- ・マルチボルト（マルチアイボルト）は浪速鉄工株式会社製です。
- ・吊り金具はレンタル品となっております。施工完了後は弊社へご返却ください。

柵の立て起こし作業について

2016.08.20

製品の搬入時、受枠が横面を向いての納入になります。施工の際、立て起こす作業が必要になりますが、製品サイズによっては立て起こし時に製品の重心の移動により、衝撃がかかる場合がありますので、以下の要領で作業してください。

また、柵の呼びサイズにより吊金具の取り付け位置が異なりますので、作業の際には製品サイズをご確認ください。

600×700 サイズ以下	手順
	①受枠インサートに専用吊金具(アイボルトまたはマルチボルト)をセットし、図のように製品の底側に角材等の緩衝材を設置します。 アイボルト・マルチボルトの種類及びサイズは別途一覧を参照してください。
	②角材に寄りかかっていることを確認しながら、少しずつ立て起こしていきます。 急に立て起こすとマルチボルトを軸に回転し、大きくふれるため、ゆっくりと立て起こして下さい。
	③徐々に立て起こすことで急な重心移動もなく、安全に立て起こしが出来ます。
	④製品が垂直になれば、製品の立て起こしの完了です。
	⑤その後、図のように施工となります。

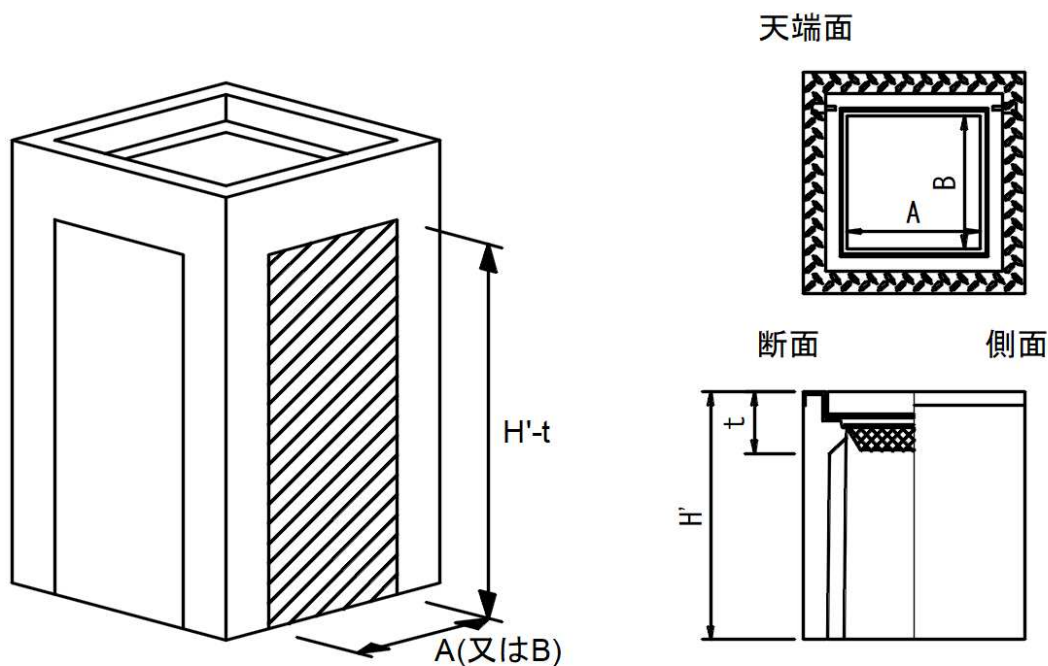
外フラット式集水桝 削孔可能範囲について

対象製品：AS 桝・PU 桝

外フラット式集水桝（AS 桝・PU 桝）は、四隅の「柱」と上部の「梁」で上載荷重を支える構造になっています。そのため穴をあける際は、この柱と梁を傷めないよう、製品ごとに決められた範囲の中で削孔していただく必要があります。

削孔できる範囲の考え方

下図のように、四隅の「柱」と上部の「梁」を避けた範囲の中（挿絵の斜線部内）で削孔します。幅方向においては柱寸法（寸法表の eA または eB ）を削孔範囲から除外し、高さ方向においては、梁寸法（寸法表の t ）を削孔範囲から除外してください。この範囲の内側であれば、構造を傷めずに穴をあけることができます。

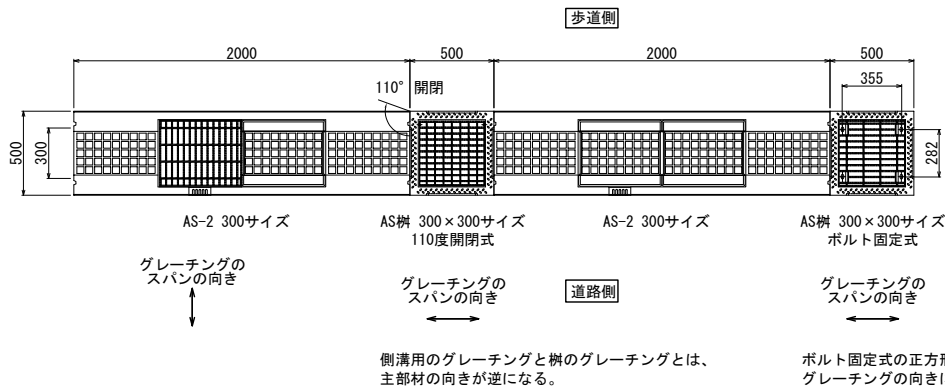


■ ご確認のお願い

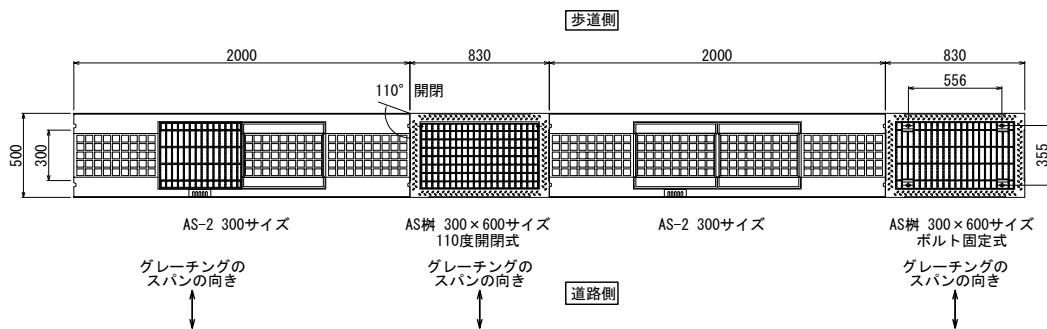
$eA \cdot eB \cdot t$ の具体的な寸法は、製品のサイズごとに異なります。実際に削孔される際は、製品カタログの寸法表で対象サイズの数値をご確認ください。

※ 削孔作業は現場の施工業者様にて行っていただきます。あらかじめ開口した状態で納品を希望される場合は、弊社までお問い合わせください

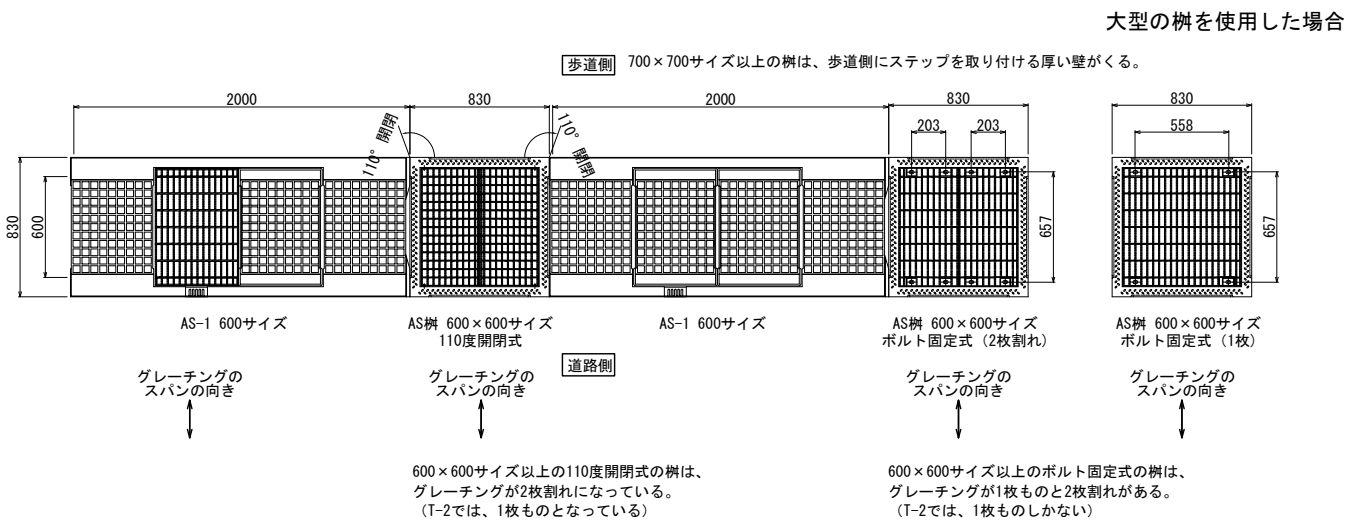
柵とグレーチングの設置向きについて



正方形の柵を使用した場合



長方形の柵を使用した場合



大型の柵を使用した場合